

【名 称】前中家住宅

【所在地】丹波篠山市今田町四斗谷 472 番地

【指定番号】第9号

【指定年月日】令和4年1月19日

【構 造】①主屋（平家建）

②土塀、脇門

③庭

【敷地面積】1,133.88 m²

【建築面積】152.06 m²

【延床面積】152.06 m²

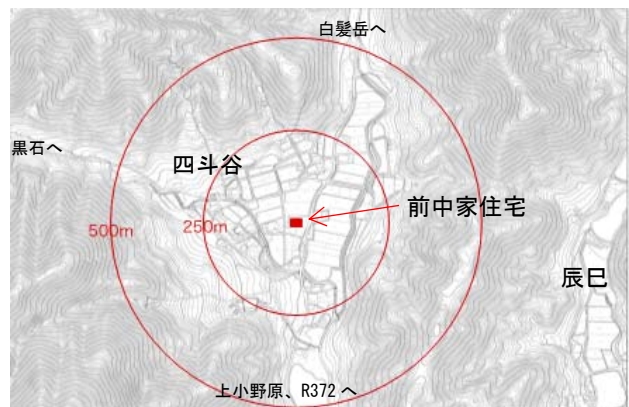
【建築年代】推定明治期



前中家住宅

【建造物の由来・沿革・特徴】

前中家は、古くからの庄屋（16代にわたる家系図あり）で、近世は造り酒屋を営み、現「鳳鳴酒造」につながる造り酒屋十数軒のひとつを担った。前庭を有する建物は、主屋と離れ、脇門を備えた土塀等からなり、前庭を含む屋敷地全体の周囲を農地が取り囲んでいる。茅葺の主屋は、L型平面の中門造の平家で、通り土間に縦長六室の間取りは、近世以降の丹波篠山の中門形式農家の典型的な間取りとなっている。屋根は周囲にシコ口を持たない全茅葺という、より古い形式を残す。



位置図

前中家、中井家の両家の住宅は、中門造の主屋の平面形状のみならず、周囲の農地も含めた敷地形状や規模、建物の全体配置等が酷似しており、盆地中央に脇門を備えた中門造の茅葺2軒が並び立つ佇まいは、非常に貴重な歴史的な景観を形成している。

【指定理由】

前中家住宅は、四斗谷地域の歴史・文化等からみて、地域を代表する中門づくりの茅葺民家であり、四斗谷の歴史的な景観形成に欠くことのできない建造物である。周囲からも容易に望見される非常に目立つ存在であることから景観重要建造物に指定するにふさわしい建造物である。